

2015年5月15日

各位

一般社団法人ナレッジキャピタル
株式会社KMO

グランフロント大阪 知的創造拠点「ナレッジキャピタル」
ナレッジキャピタル「超」学校シリーズ
「大阪大学×KNOWLEDGE CAPITAL
『わたしの研究、今、ココです！』」を開校

- 第1回 5月20日(水)「あなたとロボットの境界線はどこですか？」石黒浩 教授
■第2回 6月24日(水)「教育を経済学で考える」大竹文雄 教授
場所：グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル1F 「カフェラボ」

一般社団法人ナレッジキャピタル(代表理事:宮原秀夫)ならびに株式会社KMO(代表取締役社長:間淵豊)は、ナレッジキャピタル「超」学校シリーズ「大阪大学×KNOWLEDGE CAPITAL『わたしの研究、今、ココです！』」を5月20日(水)より、ナレッジキャピタル1F「カフェラボ」にて開校いたします。

「大阪大学×KNOWLEDGE CAPITALの「超」学校シリーズ『わたしの研究、今、ココです！』」は、これまで2014年11月から2015年3月の間に計5回のプログラムを開催し、参加者がさまざまな分野の研究者から研究の発想やプロセスを学び対話する、これまでにないプログラムとして多くの方にご参加いただきました。

本年度は、人間酷似型ロボット研究の第一人者である石黒浩教授によるプログラムを皮切りに、労働経済学と行動経済学のスペシャリスト大竹文雄教授によるプログラムのほか、全9回の開催を予定しています。

第1回は「自分が作った自分そっくりのアンドロイドに、猛烈に嫉妬する」という、人類初のジレンマに陥っている石黒教授を、第2回は「豊かな社会の維持には、教育の充実、教育への投資が欠かせない」という大竹教授を、各回の講師としてお招きし、研究者の貴重な話を聞きながら、専門知識がない方にもそれぞれの研究について理解を深めていただきます。

ナレッジキャピタルの「超」学校シリーズはこれまでも、「みんぱく×KNOWLEDGE CAPITAL」「大阪大学×KNOWLEDGE CAPITAL」「デザイン学校」「京都大学iPS細胞研究所×KNOWLEDGE CAPITAL」など、大学や企業、研究機関などのさまざまな分野の研究者と一般参加者が一緒に考え、対話するナレッジキャピタルならではのプログラムとして開催しています。ナレッジキャピタルでは今後も、一般の参加者と研究者をつなぐ場と機会を提供してまいります。



<ナレッジキャピタル「超」学校シリーズ「大阪大学×KNOWLEDGE CAPITAL『私の研究、今、ココです！』」概要>

日 時 : 5月20日(水)、6月24日(水)、19:00~20:30(開場18:30)

会 場 : グランフロント大阪北館1F「カフェラボ」

対 象 者 : 高校生以上

定 員 : 各回50名 ※要事前申し込み

料 金 : 500円(1ドリンク代)

主 催 : 大阪大学21世紀懐徳堂、一般社団法人ナレッジキャピタル、株式会社KMO



<各プログラム概要 >

■第1回 5月20日(水)「あなたとロボットの境界線はどこですか？」

講師: 石黒 浩 大阪大学特別教授 大阪大学大学院基礎工学研究科・教授

【内容】

いかに精巧なアンドロイドをつくるか——。アンドロイドの見た目のインパクトの強さに、心血を注いでいると誤解されがちですが、石黒教授の研究の真の目的は「人間とはなにか」の探求にあります。この哲学的領域に踏み込むため、「たまたま自分がもっていたロボット関連のアドバンテージを活かしているだけ、手段は別にロボットじゃなくてもよかった」とまで石黒教授は言い切ります。人間の能力や存在感を、技術でひとつひとつ機械に置き換えていき、最終的に置き換えられなかったものにこそ、人間を人間たらしめている芯があるはずと、まるで、人間から技術で引き算をしているかのような研究です。石黒教授によると、人は他人と関わることで、互いに心の存在を実感しあっているのであって、世界に人間が一人しかいなければ、その人におそらく心はないだろうとのこと。

石黒教授の作るロボットには心があるように思えます。機械に心なんかはないはずなのに？ 心まで機械に置き換えられてしまったということ？ 考えてみれば、あなたや私、友達や恋人やかわいいペットのワンコにも当たり前「心がある」と信じられている根拠はどこにあるのでしょうか。

ロボットと人間の境界が必ずやあいまいになる近い未来に、ロボットではなく、あなたである必要はなんですか？と尋ねられた時、あなたは答えを用意できているでしょうか。

※写真は「ジェミノイドHI-4」。石黒教授が作成された自分にそっくりのアンドロイドです。



アンドロイドの石黒教授

【講師プロフィール】 石黒 浩 (いしぐろ ひろし)

1963年滋賀県生まれ。大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授。ATR石黒浩特別研究所客員所長(ATRフェロー)。人間酷似型ロボット研究の第一人者。自身をモデルにした遠隔操作型アンドロイド「ジェミノイドHI-4」は世界中の注目を集めている。2011年大阪文化賞(大阪府・大阪市)受賞。2013年より大阪大学特別教授。

■第2回 6月24日(水)「教育を経済学で考える」

講師: 大竹文雄 大阪大学特別教授 大阪大学社会経済研究所・教授

【内容】

「競争社会はよくない」と言われますが、競争のない社会より競争のある社会の方が物質的には豊かです。競争の参加者からみると競争はつらいものかもしれませんが、でも、モノやサービスの買い手にとってみると、売り手が競争してくれる方が、良いモノを安く買えます。競争がない社会になってしまうことのコストは大きいのです。

競争的な社会を維持していくためには、競争に参加する機会が誰にでもあることが大事なのももちろんですが、努力すれば競争に勝つ可能性が高くなると世の中の人々が思うことが重要だそうです。運やコネで人生が決まると思えば、競争社会を維持したいとは思えないのです。

競争や協力に対する価値観は、家庭での教育だけではなく、学校教育でも形成されます。日本の小学校教育には、意外にも大きな地域差があるそうです。グループ学習が重視される地域もあれば、小学校の運動会で徒競走に順位をつけない地域もあります。こうした教育を受けた人は、その後、競争をどのように考えるように成長したのでしょうか？ 互いを思いやる人に成長したのでしょうか？ 大竹教授は経済学でこうしたことを明らかにされています。

経済学者の大竹教授が「教育」を研究するのは、豊かな社会を維持していくには、教育の充実、教育への投資が欠かせないからです。教育を経済学の視点から大竹教授がお話します。



【講師プロフィール】 大竹 文雄 (おおたけ ふみお)

1961年京都府生まれ。京都大学経済学部卒業、大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。大阪大学博士(経済学)。専門は、労働経済学と行動経済学。大阪大学社会経済研究所助教授を経て、2001年より現職。2013年より大阪大学特別教授。NHK Eテレ「オイコノミア」出演中。近著は『経済学のセンスを磨く』(日経経済新聞出版社)、『競争と公平感』(中央公論新社)

※第3回以降のプログラム詳細については、随時公式ホームページ(<http://kc-ijp/>)でお知らせいたします。